立響楽信 47

2018.11
平成３０年冬

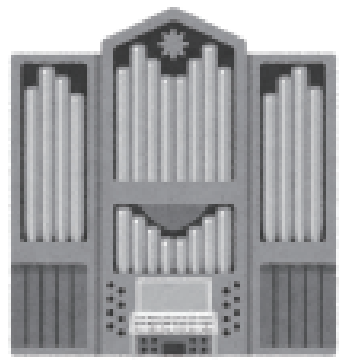
立命館大学交響楽団・立命館大学交響楽団OB会
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立響WEB　http://www.ruso60.com/
OB会WEB　http://rusoob.web.fc2.com/
OB会MAIL　obsoumu.ruso@gmail.com

編集責任　立響OB会 常任理事 寺田 卓矢（2009年卒Fl）

§ヨハネス・クライス工房の国内最大級パイプオルガンで聴く「オルガン付き」

立響OB会常任理事　寺田 卓矢（2009年卒Fl）

冬の定期演奏会が近づいてきました。今回のメイン曲はサン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」。立響は本番に先立って京都コンサートホールを練習のために借り、パイプオルガンとの合わせを行うとのことで、万全の準備で精緻な演奏を聴かせてくれることでしょう。オルガン演奏は指揮の阪 哲朗さんと旧知の追中宏美さん（神戸女学院、日本基督教団須磨教会各オルガニスト）が務めます。



京都コンサートホールに設置されているパイプオルガンはドイツ・ボンを本拠とするヨハネス・クライス工房が設計・制作した楽器。同工房はドイツをはじめとするヨーロッパ諸国はもちろん、アメリカ、ロシア、日本、中国など世界各国の教会や主要ホールにおいてその楽器が使われている名門オルガンビルダーで、日本では京都コンサートホールのほかに神奈川県民ホールや東京芸術大学、武蔵野音楽大学、大阪芸術大学などで採用されています。組立・設置は、全国150以上のパイプオルガンの設置とメンテナンス実績のあるヤマハ株式会社がヨハネス・クライス工房と共同で行いました。

国内最大級とされるこの楽器、手鍵盤4段、足鍵盤1組、ストップ（音栓）90、パイプに至っては実に7,155本という巨大な構造を持っています。ストップの操作によって音色を多彩に変化させられるのがパイプオルガンの特徴ですが、京都コンサートホールの楽器は笙、篳篥、篠笛、尺八の音色を出すことが可能となっています。また、紀元前には原型が存在していたと言われる歴史の古いパイプオルガンも、現在では電気的に制御されている部分もあり、例えば京都コンサートホールでは本体側（客席の後ろ側）に設けられた演奏台で演奏するだけでなく、ステージ上に別の演奏台を設置して、遠隔操作により演奏することもできます。

大規模パイプオルガンと大編成オーケストラが奏でる音楽のスケールの大きさを感じるには、やはりホールでの生演奏を聴くのが一番。12月21日はぜひ、京都コンサートホールにご来場ください。

立響の最新情報をお届けする Twitter等のSNSもご覧ください！

立響の情報は本紙のほか、ウェブサイトなどでお知らせしていますが、最新の演奏会情報や団員の近況、立響に関する話題をいち早くお届けするTwitter等のSNSもぜひご覧ください。

Twitter　@ruso_BOX410
Facebook　www.facebook.com/RitsUSO/
Instagram　ritsuso_official

立響オーケストラトレーナーの中橋健太郎左衛門さんがモデルのキャラクター「エモンさん」が立響の情報をつぶやくアカウントもあります。

Twitter　@emon_ruso

OB会費のお支払いにクレジットカードが使えるようになりました

立響OB会費等のお支払い、ご寄附等について、2017年11月より、クレジットカードのインターネット決済がご利用いただけるようになりました。手続き方法の詳細はOB会ウェブサイトをご確認ください。

http://rusoob.web.fc2.com/

従来のOB会ゆうちょ銀行口座へのお振り込み、口座振替も引き続きご利用いただけます。

2025年の立響創立70周年を見据え、OB会としても活動の高度化を図ってまいります。引き続き皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

∮「天国と地獄」と「オルガン付き」

2018年度学生指揮者　松島 弘樹

こんにちは。学生指揮者の松島です。次回の定期演奏会にてオッフェンバックの「天国と地獄」を指揮させて頂きます。曲後半の「Can can」は運動会の定番でもあり、あまりにも有名ですね。前半部分はあまり耳にする機会がありませんが、とても魅力的な曲です。さて、この曲、オッフェンバックによって作られたパロディ作品であるオペレッタ「地獄のオルフェ」の楽曲となっております。コメディ作品でもあるため、どこか“おどけた”ような、愉快な曲調はもちろんのこと、途中のチェロソロやヴァイオリンソロでは美しいワルツ調の音楽となり、変化を楽しむことができるような楽曲です。とても内容が豊富なため、聴きごたえもあり演奏する側としても難しさのある曲です。これから曲の持つ魅力を最大限に引き出せるよう奏者と共に努力していきたいと思います。

メイン曲はサン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」。京都コンサートホールのパイプオルガンを使用します。サン＝サーンスはこの曲について「この曲には私が注ぎ込める全てを注ぎ込んだ」と述べていたようで、彼の持つ技法が集約された交響曲と言っても過言ではないでしょう。何と言っても楽譜通りに音を並べるのが難しい…。プロの演奏家の方でもなかなか難易度が高いそうですね。しかし、どの楽器も大活躍のこの楽曲はとても練習意欲を駆り立てられ、団員一同燃えております。トロンボーン吹きでもある私は登場回数が多くて喜んでおります 笑（トロンボーンパート譜の枚数はブラ2の3倍）。

そんなことはさておき、このサン＝サーンスの傑作が我々の回生が1年間中心となって活動を行ってきた集大成となります。どんな演奏になるのか、是非会場へ見届けにいらしてください。

∮シベリウス：ヴァイオリン協奏曲

2018年度副学生指揮者　佐々木 隆希

副学生指揮者の佐々木隆希です。僕はサマーコンサートで低回生オケの「セビリアの理髪師」序曲を振り、オーケストラでは初めて指揮者として本番を終えました。低回生オケは低回生中心で編成されているため、先輩と比べとても経験の差が多くたくさんの課題にぶつかりましたが、本番は先輩やプロにはない低回生ならではのフレッシュで元気のある演奏をお客様に届けることができたと思います。僕にとって低回生オケを通して得た経験は、自信となり中心回生を迎えるための基盤となりました。そして新しく立響に入ってくれた一回生にとって充実した時間であったらなと思います。

さて、僕は今第120回定期演奏会の中プロであるシベリウスの「ヴァイオリン協奏曲」の下振りをしています。シベリウスの作品は祖国フィンランドの大自然を想起させるような作品が多く、このヴァイオリン協奏曲もその特徴を持っていると思います。シベリウスの作品を僕のような若僧が理解し、曲を創り上げることはとても困難なことだと思いますが、僕なりにシベリウスの伝えたかったこと表現したかったことを楽譜から読み取り、立響のサウンドに色をつけられたらなと思います。これからも日々精進していきます。応援よろしくお願いします！

～コメントをいただきました～

◆指揮　阪 哲朗（立響オーケストラ・アドヴァイザー）

今年は、幻想交響曲のように長年定演の候補に上がっては消えていたサン=サーンスの3番オルガン付きです。僕も初めてなのですが、プロにも難しい1楽章…なかなか演奏されない理由がよく分かります。…なんてことは言ってられないので、前回30年前、第60回定演を上回る出来で皆さんにお聴かせできるように練習あるのみです。京都コンサートホールのオルガンを鳴り響かせるのは実は自分にとってはデビューの97年以来になります。パイプオルガンと立響のコラボ、そして名曲中の名曲、シベリウスのヴァイオリン協奏曲の植田リサさんとの競演も今から楽しみです。ご期待下さい！

◆ヴァイオリン独奏　植田 リサ

初めまして、植田リサと申します。ロンドンは急に冷え込み、シベリウス冒頭部分のいいインスピレーションになっています。独奏部分の技巧性で有名ですが、注目していただきたいのは、交響曲のような重厚な響きと室内楽的で緊密な構成です。交響的でありながらも幻想的、心に沁みるハーモニー、シベリウス独特の世界観が広がる20世紀を代表する名作…古今のヴァイオリン協奏曲の中でも屈指のスケール感を持ち、オケの良さが際立つこの曲を是非味わいにいらして下さい。

∮サマーコンサートを終えて

2018年度インスペクター　益野 颯仁

こんにちは。インスペクターの益野です。先日はサマーコンサートにお越しいただき、誠にありがとうございました。今回は“Opera Night”と銘打ち、オペラに関係する曲目を中心に演奏しました。後半ではプロの歌手3人をお迎えし、「蝶々夫人」より名場面をお届けしました。立響でのオペラは「カルメン」、「リゴレット」に続き3作目です。今回はOICのグランドホールでの完全自主公演で、準備段階ではたくさんの議論を重ねました。

団員のほとんどが歌手と合わせることが初めてで、単にインテンポでフレーズを弾くだけでなく、歌に合わせてアゴーギクを変化させるのがとても苦労しました。指揮の中橋健太郎左衛門さんが「歌との共演によって、楽器で音を出すだけではない表現力を鍛えることができる」とおっしゃっていたように、弾いている最中でもフレーズ感や歌詞の持つ雰囲気を味わえるようになったと感じています。また、合唱は京都市立芸術大学の方と有志の団員で構成し、迫力のある歌声を披露していただきました。

今回の演出に関しては、オペラの要素を凝縮して取り入れることにしました。動きながら歌う入場、時間の変化を表す照明、舞台裏から聞こえるハミングなどによって会場の立体感を感じていただけたかと思います。効果的な演出によって、演奏がさらに引き立つというのもオペラの魅力だと知りました。この経験を活かし、今後とも練習に励んで参りたいと思いますので、ご支援のほどお願い申し上げます。

（上）ステージ奥に一段高く設けられたひな壇の上で歌う「蝶々夫人」タイトルロールのソプラノ・藤井直美さん。他にピンカートン役としてテノール・城 宏憲さん、シャープレス役としてバリトン・勝村大城さんが出演。
（右）同じくステージ奥のひな壇で演奏する第 1 部のバンダ。

∮サマーコンサートを聴いて

立響OB会常任理事　寺田 卓矢（2009年卒Fl）

すでにいくつかの公演を開催し、立響の新たなホームグラウンドの一つとなったと言える立命館大学 大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市に2015年春開設）内のグランドホール。そこで8月28日に行われたサマーコンサートを聴きました。

前半はオペラにまつわる名曲集。ピッチやパート間のバランスなど演奏上の課題はあったものの、多彩な曲を弾き分け、学生指揮者らによる曲間の解説や来場者の指揮体験などで客席を楽しませました。また、後半で使用するひな壇の上にバンダを配置するなど、視覚的な工夫もありました。

後半の「蝶々夫人」は、劇中の名場面におけるアリア等を抜粋演奏しつつ、合間に指揮の中橋健太郎左衛門さんによる解説が入るというスタイル。オーケストラはオーケストラ・ピットではなくステージ上に配置。大道具・小道具はありませんが、照明を変化させて情景の移り変わりを表現するとともに、オーケストラの背後に高く設けられたひな壇の上で歌い手が演技を交えて歌うなど、オペラ演奏の一つの形式として十分面白みとわかりやすさを感じさせる趣向を凝らしていました。

振り返れば2007年12月、立響は指揮者・横島勝人さんのお招きにより、四国二期会高知支部が制作するオペレッタ「こうもり」を演奏する機会をいただきました。高知県立県民文化ホールのオーケストラ・ピットに入り、舞台上には邸宅のセットが組まれた本格的な公演。このときは自在に揺れる歌や、ステージ上とは周囲の音の聴こえ方が異なるピットの特性に、大変苦労した記憶があります。もし舞台装置や照明、字幕等まで自分たちで手配するとなればさらに大変なことですが、立響には今回の経験も活かして、いずれ本格的なオペラの自主制作に挑戦してほしいと思います。

♪ロビーマナー研修会を開催しました

立響OB会常任理事　寺田 卓矢（2009年卒Fl）

立響OB会では、演奏会でのお客様対応のノウハウを立響の現役生に学んでもらい、演奏だけでなく接客面でも一流の学生オーケストラとなることを目指して、ロビーマナー研修会を企画・開催しています。2018年5月20日（日）、昨年11月の第1回に続き、第2回を立命館大学 衣笠キャンパス内で開催しました。

講師は前回と同じく、企業の社員研修や文化施設・工場などの管理業務を行っているサントリーパブリシティサービス株式会社（SPS）から招聘。前回は座学を中心とする2時間の研修でしたが、今回は倍の4時間とし、23名の学生が接客の心構え、表情、お辞儀や身振りなどの基礎的な動作、言葉遣い、チケットテイクの方法などを学びました。後半ではいくつかのグループを作り、スタッフ役と来場者役に分かれて座席案内のロールプレイを行なうとともに、車椅子を実際に使用したり、案内方法を実践しました。

この研修会は今後も継続を検討しており、白杖や盲導犬・聴導犬を伴う来場者の案内や、地震・火災等の災害時の避難誘導など、より高度な接客技術を身に付けてもらいたいと考えています。

定期以降の立響演奏会予定

■フェアウェルコンサート2019
2019年2月17日（日）　13:30開場／14:30開演
立命館いばらきフューチャープラザ　グランドホール
（立命館大学 大阪いばらきキャンパス）
入場無料（13:00より整理券配布）

指揮：竹内智哉（学生）、阪 哲朗
ハチャトゥリアン／組曲「仮面舞踏会」抜粋
チャイコフスキー／交響曲第5番ホ短調　ほか

■第121回定期演奏会
2019年5月18日（土）　開演時間未定
立命館いばらきフューチャープラザ　グランドホール
（立命館大学 大阪いばらきキャンパス）

※日程・会場等は変更となる場合があります。最新情報は立命館大学交響楽団ウェブサイトなどでご確認ください。

楽器貸与のお願い

いつもご支援、ご協力くださりありがとうございます。団員一同、冬期定期演奏会に向けて練習に励んでいるところでございます。この度、皆様にお願いがございます。現在当団所有のヴィオラの個数が少なく、また、楽器購入も予算の関係上難しいことから、来年度ヴィオラパートに新入生を受け入れることができない状況となっています。誠に勝手ではございますが、ヴィオラを当団に長期貸与して頂ける方がいらっしゃれば、お借りしたく、お願い申し上げます。貸与いただける場合は現役団員に直接ご連絡いただくか、SNSのダイレクトメッセージや、ホームページのお問い合わせを通じてご連絡いただけると幸いです。今後とも応援の程よろしくお願い致します。

立命館大学交響楽団ヴィオラパート一同

訃報

年代幹事の仙福泰男さん（1962（昭和37）年卒、ホルン）が2018年9月25日に逝去されました。享年81歳でした。長らくの立響およびOB会に対するご尽力に感謝申し上げますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。